

第8次北海道酪農・肉用牛 生産近代化計画における 数値目標(案)

令和2年8月

北海道農政部生産振興局畜産振興課

酪農に係る数値目標(案)

- 酪農における生乳出荷戸数については、つなぎ飼い経営体の離農を最大限抑制するとともに、労働力不足を背景に、搾乳ロボットを活用した規模拡大を促進することなどにより、現状から約900戸減の5,010戸と5,000戸台の維持を目指す。
- 乳用牛頭数については、現状から16千頭、年間生乳生産量約30万トンの増加を目指す。

	前回の現状 (2015年)	現行計画 (2025年)	現状 (2019年)	次期計画 (2030年)	国
酪農家戸数 (内訳(生乳出荷戸数))	6,900戸	5,900戸	5,970戸	5,010戸	—
放牧主体(個人)	461	600	439	550	—
つなぎ飼い(個人)	4,311	2,800	3,477	2,500	—
フリーストール ・パーラー(個人)	1,276	1,370	1,058	860	—
フリーストール ・搾乳ロボット(個人)	144	400	250	490	—
組織経営	138	190	243	390	—
乳牛総頭数	795千頭	802千頭	821千頭	837千頭	772千頭 ～854千頭
生乳生産量	385万トン	400万トン	409万トン	440万トン	418万トン ～462万トン

肉用牛に係る数値目標(案)

- 肉用牛においては、酪農育成経営からの転換等の動きもあり、現状より微減の2,400戸と現行計画と同水準の経営体の維持を目指す。
- 肥育経営体においては、経営コスト削減の観点から、施設整備事業や営農支援組織を活用しつつ、一貫経営への転換が進むよう誘導を目指す。

	前回の現状 (2015年)	現行計画 (2025年)	現状 (2019年)	次期計画 (2030年)	国
農家戸数(戸)	2,661戸	2,400戸	2,540戸	2,400戸	—
(内訳)					
和牛繁殖経営	1,680	↓ 1,440	1,710	↓ 1,610	—
和牛肥育経営	59	↓ 50	58	↓ 50	—
和牛一貫経営	499	↑ 510	341	↑ 400	—
乳用種・交雑種 哺育・育成経営	136	↓ 100	203	↓ 100	—
乳用種・交雑種 肥育経営	287	↑ 300	224	↑ 240	—
肉用牛 総飼養頭数	509千頭	510千頭	513千頭	552千頭	551千頭 ～609千頭

飼料生産に係る数値目標(案)

- 飼料作付け面積は、農家戸数の減少はあるものの近年横ばいで推移しており、引き続き、現状の589千haの飼料作付け面積の確保を目指す。
- 飼料自給率は、乳用牛における個体乳量の増加等による飼料要求量の増加はあるものの、現状を上回る60～62%への向上を目指す。

	前回の現状 (2015年)	現行計画 (2025年)	現状 (2019年)	次期計画 (2030年)	国
飼料作付け 延べ面積	596千ha	596千ha	589千ha	589千ha	—
（牧草面積）	546千ha	535千ha	533千ha	521千ha	—
（デントコーン面積）	50千ha	60千ha	56千ha	68千ha	—
飼料自給率	54%	65%	52.1%	60～62%	34% ※前計画の40% から▲6%減少
（乳用牛）	64%	75%	61.2%	69～71%	※全畜種におけ る設定値
（肉用牛）	25%	34%	25.0%	33～35%	